

# 新宗教新聞

信の自由を守ろう  
信仰心を広めよう  
宗教協力を進めよう  
世界の平和に貢献しよう

## 全国総会 福岡で開催

新宗連



全国総会は5年ぶり、善隣教本庁聖堂で開催された理事会 (10月8日)

新日本宗教団体連合会(新宗連)石倉寿一理事長は10月8、9日、福岡県筑紫野市と福岡市で「令和6年度全国総会」を開催した。コロナ禍を経て、全国総会の開催は2019(令和元)年以来5年ぶり。8日午後、筑紫野市の善隣教本庁を会場に開催した第33期第2回理事会では令和7年度事業大綱案、諸規程の整備案などを承認。事業大綱の重点課題には「終戦80周年を迎えるにあたり、今年度から進めている『すべてのいのちを尊ぶ世界実現』に向けた祈りと慰霊推進事業」により一層努めることを明記した。9日午前には第33期第1回全国総会支部会議を開催した。

### 終戦80周年 全てのいのちを尊ぶ世界実現に向け祈りと慰霊推進事業を

8日、筑紫野市の善隣教 50人が出席。オンラインで本庁での第33期第2回理事会 7人が出席した。会には深田充啓善隣教本庁理事長、理事会に先立ち、午前11時、善隣教本庁理事長、岡田光史、時から、出席者は聖堂御問の歴史理事長はじめ新宗連 神前と御霊殿、祖霊殿の力連役員、総支部会長・事務 久藤積二代教主(元新宗連局長、オプザーバー)含め約 顧問 永劫増を参拝した。

午後1時から、聖堂を会場に開催した理事会は冒頭、会場受け入れの武蔵野樹・善隣教理事長と、深田名善会長があいさつ。続いて今年6月の第33期役員改選で新任した眞塩陽、郎理事(7期全教教主)、杉浦 妙岡評議員(福聚の会長)があいさつを述べた。

審議事項では、はじめに令和7年度事業大綱案について、田澤清喜・企画委員長が説明。活動方針と重点課題は前年度を踏襲する内容だが、5項目の重点課題があげられた。

また、「祈りのことば」(「菜」参照)継続について石倉理事長が説明。事業大綱案、補正事項案、「祈りのことば」の継続について、一括して原案通り承認した。

このほか、令和7年度の主な会議、行事予定、規程の整備等の審議事項も原案通り承認された。

報告事項では、能登半島地震支援活動はじめ、各委員会・機関、新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会)、総支部・協議会、宗教界の活動報告が行われた。

### 第5・6次ボランティア隊を派遣 秋祭り参加と豪雨災害支援に尽力

能登半島 地震

新宗連並びに新宗連青年会は、令和6年能登半島地震の被災地支援のため、「地域復興応援隊」(第5次)並びに第6次ボランティア隊を9月20日から29日まで石川県七尾市に派遣。3教団から延べ160人が参加した。



中島町で催された新宮祭 (9月23日)

域復興応援隊は、旗や神輿を担ぎ、地域住民と共に祭りを盛り上げ、被災地に元気を取り戻すために力を注いだ。しかし、9月21日に接近した温帯低気圧の影響により、記録的な大雨が降る。21日の「お熊甲祭」は、合され、地域復興応援隊は中止となり、地元有志で行われた旗や神輿奉納の様子を見守った。22日には石川県全域に避難指示が発

令と、奥能登地域の珠洲市や輪島市では河川の氾濫や土砂崩れが相次ぎ、15カ所が孤立状態に陥った。また、9カ所の仮設住宅が浸水被害を受け、多くの住民が避難を余儀なくされた。



泥のかき出し作業 (9月24日)

こうした状況を受け、22日の地域復興応援隊は一部予定を変更して七尾市内の床下浸水の復旧作業にあたった。24日から始まった第6次隊も、被害の大きい輪島市と珠洲市に分かれて支援活動を展開。輪島市では河原田川の氾濫による浸水被害を受けた住宅で泥をかき出し作業を行い、珠洲市では孤立集落への飲料水の

供給や避難所となっている中学校での飲料水・土のう袋の提供とともに泥かき作業を実施。学生ボランティアや地域住民と協力し、泥出しや家財の搬出作業が進められた。

奥能登の被災地では、地元住民とボランティアが協力しながら、緊急支援が進められているが、マンパワーの不足が深刻化している。被災者たちは地震と豪雨の二重被害により、復旧への道のりがさらさら険しいものとなっている。

新宗連は第7次隊を10月4日から12日、第8次隊を10月13日から27日まで派遣。11月以降も継続して豪雨被害の緊急支援活動を行う予定だ。

(2面)復興支援ボランティア参加者のアンケート掲載

### 滔々抄

5年振りに対面での新宗連全国総会、善隣教本庁に向かう道中、久々にお会いさせて頂く先生方に思いを馳せながら、コロナ禍による社会変化が人々に及ぼした影響について考えを述べた。

### 生きて成仏の道が信仰なり

悪しき欲や都合良きに囚われず、正しい判断を、真の信仰心で生き抜く。生きているうちに、後悔のない人生を送る。生きて成仏を目指す。生きて成仏を目指す。生きて成仏を目指す。生きて成仏を目指す。

### 日本被団協にノーベル平和賞 「核兵器なき世界」実現 全力を尽くす決意新た

WCRP日本委員長、祝福のコメント。核兵器による被害を繰り返さないための、力強いメッセージになる。日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)が今年度のノーベル平和賞を受賞したことを、世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会の戸松義晴理事長は祝福のコメントを寄せた。

### 祈りのことば

新宗連は2016(平成28)年、北朝鮮による拉致問題の風化を防ぎ拉致被害者の即時帰国に向けた「祈りのことば」を作成した。翌年には緊張が高まる北朝鮮情勢の平和解決、「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現に向けて、新たな「祈りのことば」を作成した。18(平成30)年以降もアジアをはじめ世界各地の争いの火種が鎮まることを念願してきた。21(令和3)年1月から約3年半、新型コロナパンデミックによる犠牲者追悼と早期終息の文言も加えて祈りをつづけてきたが、25(令和7)年からは「すべてのいのちを尊ぶ世界実現」という新宗連のビジョン(目的・使命)を再確認して、「祈りのことば」を継続していくこととした。

解脱会伝記編集委員会編  
新版 解脱金剛伝 全3巻  
A5判、上製函装 定価各巻3,000円(税込)  
5巻判、上製函装 定価各巻3,000円(税込)  
解脱会  
〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地  
Tel 03-3353-2191(代表) Fax 03-3353-3055

清文社  
宗教法人の  
税務調査対応ハンドブック  
A5判、780円  
公益財団法人 日本宗教連盟 推薦!

芸術生活社  
老春謳歌 長生きの秘訣  
御木徳近著  
高年齢を快く生きるための「人生の道しるべ」  
定価700円(税込)

中央経済社  
「48万円の壁」と住民税非課税限度額の壁を突破する やつとわかった! 賢いもらい方  
やつとわかった! 賢いもらい方  
定価2,000円(税込)

没後仕事場から発見された未発表原稿を緊急刊行。  
「ゴータマ」の大意予言  
定価1,800円(税込)

白馬社  
合掌ができない 子どもたち  
浄土真宗本願寺派福智寺住職 三上章道  
定価1,600円

ハーベスト社  
東日本大震災後の 宗教とコミュニティ  
星野英紀・山田達也編  
定価3,000円(税込)

緊急出版 カトリック大阪教区神父 西山俊彦  
平和憲法が平和への道、改憲は戦争への道  
わたしたちが核戦争の加害者とならないために  
定価1,400円+税 四六判並製  
248頁 ISBN 978-4-286-19691-6  
文芸社  
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1  
☎03-5369-2299 FAX 03-5369-3066  
https://www.bungeisha.co.jp  
書籍のご注文はお近くの書店またはブックサービス ☎0120-29-9625、ネット書店まで

### 令和6年能登半島地震 復興支援 ボランティア参加者にアンケート

#### 新宗連

新日本宗教団体連合会(新宗連)理事(新宗連石巻支所 理事)なるびに新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、宮本泰克委員長)は先ごろ、能登半島地震復興支援ボランティア(第1次隊)第4次隊(4月2日〜7月12日)の参加者を対象にアンケートを実施し、無記名方式で9月20日現在、56件の回答が寄せられた。

アンケート結果によると、半数以上の参加者が「復興が進んでいない」といった印象を抱き、震災から8カ月が経過してもなお、被災地の厳しい現状が深い衝撃を受けていることが明らかとなった。

アンケートでは「ボランティアの役割」に関する意見も多く寄せられた。「ボランティアとは被災者の心に寄り添うこと」というGOSTAFFの言葉に共感する声もあれば、支援活動は「0から1の段階まで進めるもの」であり、その後



仮設住宅の用水路で清掃活動を行う(七尾市)。

声もあり、ボランティア活動が参加者の意識を大きく変えたことが伺えた。

同時に、参加者からは「スキル不足を感じた」という声もあり、ボランティア活動の前提として事前準備の重要性が課題として浮き彫りされている。

**支援活動の現場から**

晩秋の冷たい風が頬をかすめる季節、石川県輪島市では、新宗連の第8次ボランティア隊が懸命に支援活動を行っている。9月21日の豪雨で甚大な被害を受けた奥能登で、泥のかき出しや家財道具の運び出しに精を出す彼らの姿がある。

そんな中、ある男性ボランティアから届いた一通のメールが心に響いた。中古の軽トラックを購入し、それを被災地での作業に役立てたいという思いが綴られていた。男性は仕事の合間を縫い、11月に2週間の支援参加を決めている。彼は4月から何度も現地足を運び、ボランティア活動を人の生きがいとしている。その献身的な姿勢に、被災地NGO協賛センター現地スタッフ、増島智子さんも厚い信頼を寄せた。

ボランティア活動は、単に支援を提供するだけではなく、被災者から多くを受け取る。感謝の言葉や住民のたすきが、参加者たちに新たな力を与え、人と人が支え合うその相互のつながりがこそ、ボランティアの本質だ。

輪島市の和食店主も、復興の最中に再び災害に見舞われた現実を嘆きながらも、ボランティアへの感謝を口にした。こうした言葉を聞くたびに、被災者の声に添い、共に歩むことの大切さを改めて実感する。

新宗連の災害支援活動は、物理的な支援にとどま

### 青九連 立正佼成会門司、小倉両教会で ユースフォーラム2024 in 北九州

#### 新宗連 青年

新日本宗教青年会九州連盟(青九連)、柴田雅透委員長は9月14日、15日の両日、北九州市の立正佼成会門司教会、小倉教会を会場に「青九連ユースフォーラム2024 in 北九州」を開催した。青九連は例年、包括地域の各青年委員会が受け入れを行い、ユースフォーラムを開催している。今年も北九州地区「Feel the キタキュー」

出会いから絆へ」をテーマに受け入れを担当した。14日午後1時から門司教会で開会式が行われ、冒頭

善隣教戸畑教会の岡村光太郎会長があいさつを述べた。開会式の後、オリエンテーションでは門司教会会員が「門司港名物バナナの叩き売り」を実演。独特のリズムでバナナを叩き売ります姿に会場の雰囲気は笑顔に包まれた。この後、各班に分かれ、九州鉄道記念館の見学や門司港周辺でのウォークラリーを通して、参加者は他教団の青年らと交流を深めた。

門司港での散策を終えた一行は門司教会に戻り、振立正佼成会小倉教会で懇親会を開催し、親睦を深めた。翌15日は北九州市小倉区での平和学習と小倉城周辺の散策が行われた。

参加者はまず勝山公園の原爆犠牲者平和祈念碑(長

かび上がった。今回のボランティア派遣は多くの参加者にとって貴重な経験となり、被災地支援の意欲を一層高める契機となった。新宗連ならびに新宗連青年会によるボランティア派遣は9月以降も継続して行われる予定であり、支援活動の広がりが期待されている。

「最後の一人まで。被災地NGO協賛センターのメンバーは、取り残されようのないように」と語り、被災地の復興には時間がかかる。だからこそ、息の長い支援が不可欠である。

奥能登の被災地では、地元住民とボランティアが協力しながら緊急支援を進めているが、マンパワーの不足は深刻だ。地震と豪雨との二重の被害を受けた地域において、復旧の道のりはさらに険しさを増している。それでも、支援の手を緩めるわけにはいかない。

被災地に足を運び、自分の目で見て、手で触れ、感じる。被災地を歩くと、ボランティアの原点なのだろう。アンケートには、ボランティア参加者からの声も寄せられている。被災地の現状と直接触れ合い、少しでもお役に立ちたいと思っただけで、ボランティアの本質だ。

人の強さやたくましさを感じました。自分もいる場所まで行ってみたいと思いました。心を尽きて人々に向き合いたい、笑顔で帰路につきたい、と語り、このささやかな喜びこそが、ボランティアの一番の魅力なのかもしれない。

と感想を話した。

その後、小倉教会で閉会式が行われた。各班の代表者が感想を発表し、20代の男性は「信仰対象は異なっても、平和を願う気持ちは同じだと感じた。今後も他教団との交流を深めていきたい」と語った。10代の女性は「昨年のユースフォーラムで知り合った参加者と再会できて楽しかった。自分の教団の祈りの意味があまり詳しく知らなかったが、他教団の方々に伝えるため、改めて学び直したい」と振り返った。

最後に、善隣教の岡村会長と小倉教会の柴垣多加志会長があいさつを述べ、閉会した。

### 小倉の空襲被害を学び、平和願う

小倉の空襲被害を学ぶ、平和願う。参加者はまず勝山公園の原爆犠牲者平和祈念碑(長崎県佐世保市)を訪れ、全員の胸に黒いハンカチを佩き、犠牲者の冥福を祈った。開会式の後、オリエンテーションでは門司教会会員が「門司港名物バナナの叩き売り」を実演。独特のリズムでバナナを叩き売ります姿に会場の雰囲気は笑顔に包まれた。この後、各班に分かれ、九州鉄道記念館の見学や門司港周辺でのウォークラリーを通して、参加者は他教団の青年らと交流を深めた。

門司港での散策を終えた一行は門司教会に戻り、振立正佼成会小倉教会で懇親会を開催し、親睦を深めた。翌15日は北九州市小倉区での平和学習と小倉城周辺の散策が行われた。

参加者はまず勝山公園の原爆犠牲者平和祈念碑(長

【諸会議報告】

ボランティア派遣、平和祈願式典準備を報告

新宗連青年会

新日本宗教青年会連盟(新宗連)理事(新宗連石巻支所 理事)なるびに新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、宮本泰克委員長)は先ごろ、能登半島地震復興支援ボランティア(第1次隊)第4次隊(4月2日〜7月12日)の参加者を対象にアンケートを実施し、無記名方式で9月20日現在、56件の回答が寄せられた。

アンケート結果によると、半数以上の参加者が「復興が進んでいない」といった印象を抱き、震災から8カ月が経過してもなお、被災地の厳しい現状が深い衝撃を受けていることが明らかとなった。

アンケートでは「ボランティアの役割」に関する意見も多く寄せられた。「ボランティアとは被災者の心に寄り添うこと」というGOSTAFFの言葉に共感する声もあれば、支援活動は「0から1の段階まで進めるもの」であり、その後

【諸会議報告】

ボランティア派遣、平和祈願式典準備を報告

新宗連青年会

新日本宗教青年会連盟(新宗連)理事(新宗連石巻支所 理事)なるびに新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、宮本泰克委員長)は先ごろ、能登半島地震復興支援ボランティア(第1次隊)第4次隊(4月2日〜7月12日)の参加者を対象にアンケートを実施し、無記名方式で9月20日現在、56件の回答が寄せられた。

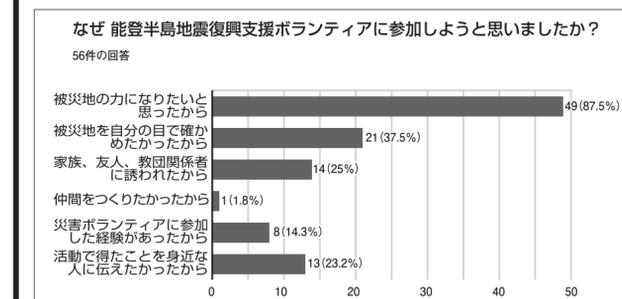
アンケート結果によると、半数以上の参加者が「復興が進んでいない」といった印象を抱き、震災から8カ月が経過してもなお、被災地の厳しい現状が深い衝撃を受けていることが明らかとなった。

アンケートでは「ボランティアの役割」に関する意見も多く寄せられた。「ボランティアとは被災者の心に寄り添うこと」というGOSTAFFの言葉に共感する声もあれば、支援活動は「0から1の段階まで進めるもの」であり、その後

### WCRPH本委 第49回理事会 国際会合「平和のためのAI倫理」の詳細を報告

世界宗教者平和会議日本委員会(WCRPH)日本委員会(戸松義晴理事長)は9月10日午後2時から、東京都千代田区千代田の龍谷大学大宮キャンパスを会場にオンライン併用で第49回理事会を開催した。

審議事項では、日本委員



なぜ 能登半島地震復興支援ボランティアに参加しようと思いましたか？

56件の回答

被災地の力にならな 49 (87.5%)

被災地を自分た 21 (37.5%)

家族、友人、教 14 (25%)

仲間をつくりた 11 (1.8%)

災害ボランティア 8 (14.3%)

活動で得た 13 (23.2%)

### 新宗連 総支部協議会

新宗連 総支部協議会

新日本宗教青年会連盟(新宗連)理事(新宗連石巻支所 理事)なるびに新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、宮本泰克委員長)は先ごろ、能登半島地震復興支援ボランティア(第1次隊)第4次隊(4月2日〜7月12日)の参加者を対象にアンケートを実施し、無記名方式で9月20日現在、56件の回答が寄せられた。

アンケート結果によると、半数以上の参加者が「復興が進んでいない」といった印象を抱き、震災から8カ月が経過してもなお、被災地の厳しい現状が深い衝撃を受けていることが明らかとなった。

アンケートでは「ボランティアの役割」に関する意見も多く寄せられた。「ボランティアとは被災者の心に寄り添うこと」というGOSTAFFの言葉に共感する声もあれば、支援活動は「0から1の段階まで進めるもの」であり、その後

### 宗教法人運営実務研究協議会 不活動宗教法人を整理する 法的な手続きについて解説

宗教法人運営実務研究協議会

不活動宗教法人を整理する 法的な手続きについて解説

講師は、東京都生活文化スポーツ局民生生活管理課 法人課宗教法人総括担当の蔵持真理氏、東京労働局労働基準部監督特別監督官の稲田俊介氏、宗教法および宗教経営研究所所長教授の蔵持真理氏、宗教法および宗教法実務研究協議会を

### 立正佼成会大月 教会で「総務会」

立正佼成会大月 教会で「総務会」

新日本宗教青年会連盟(新宗連)理事(新宗連石巻支所 理事)なるびに新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、宮本泰克委員長)は先ごろ、能登半島地震復興支援ボランティア(第1次隊)第4次隊(4月2日〜7月12日)の参加者を対象にアンケートを実施し、無記名方式で9月20日現在、56件の回答が寄せられた。

アンケート結果によると、半数以上の参加者が「復興が進んでいない」といった印象を抱き、震災から8カ月が経過してもなお、被災地の厳しい現状が深い衝撃を受けていることが明らかとなった。

アンケートでは「ボランティアの役割」に関する意見も多く寄せられた。「ボランティアとは被災者の心に寄り添うこと」というGOSTAFFの言葉に共感する声もあれば、支援活動は「0から1の段階まで進めるもの」であり、その後

### 宗法研 宗教法人法の理念と新宗教をテーマに

宗法研 宗教法人法の理念と新宗教をテーマに

新日本宗教青年会連盟(新宗連)理事(新宗連石巻支所 理事)なるびに新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、宮本泰克委員長)は先ごろ、能登半島地震復興支援ボランティア(第1次隊)第4次隊(4月2日〜7月12日)の参加者を対象にアンケートを実施し、無記名方式で9月20日現在、56件の回答が寄せられた。

アンケート結果によると、半数以上の参加者が「復興が進んでいない」といった印象を抱き、震災から8カ月が経過してもなお、被災地の厳しい現状が深い衝撃を受けていることが明らかとなった。

アンケートでは「ボランティアの役割」に関する意見も多く寄せられた。「ボランティアとは被災者の心に寄り添うこと」というGOSTAFFの言葉に共感する声もあれば、支援活動は「0から1の段階まで進めるもの」であり、その後

### 宗連 不活動宗教法人を整理する 法的な手続きについて解説

宗連 不活動宗教法人を整理する 法的な手続きについて解説

講師は、東京都生活文化スポーツ局民生生活管理課 法人課宗教法人総括担当の蔵持真理氏、東京労働局労働基準部監督特別監督官の稲田俊介氏、宗教法および宗教法実務研究協議会を

### 新宗連 総支部協議会

新宗連 総支部協議会

新日本宗教青年会連盟(新宗連)理事(新宗連石巻支所 理事)なるびに新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、宮本泰克委員長)は先ごろ、能登半島地震復興支援ボランティア(第1次隊)第4次隊(4月2日〜7月12日)の参加者を対象にアンケートを実施し、無記名方式で9月20日現在、56件の回答が寄せられた。

アンケート結果によると、半数以上の参加者が「復興が進んでいない」といった印象を抱き、震災から8カ月が経過してもなお、被災地の厳しい現状が深い衝撃を受けていることが明らかとなった。

アンケートでは「ボランティアの役割」に関する意見も多く寄せられた。「ボランティアとは被災者の心に寄り添うこと」というGOSTAFFの言葉に共感する声もあれば、支援活動は「0から1の段階まで進めるもの」であり、その後



# 第21回 奈良県宗教者フォーラム 社会と宗教の役割と 関わりについて学ぶ



基調講演に立った小池寺務長はYouTubeを通じて述べた。

第21回奈良県宗教者フォーラム(実行委員長主催)が9月26日午後1時半から、奈良市の西大寺興正殿で開催された。宗教者ら約100人が参加した。

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会の気候変動タスクフォース(責任者田中康仁・真生会長)は9月12日午後2時から、オンラインで「原発問題を倫理的視点から再考する」と題した気候変動タスクフォースの学習会を開催した。

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

動は1975(昭和50)年から続く実践で、貧困や紛争など困難な状況にある人々の幸せを願い、会員が月に数回、食事を抜いて節約活動をする。この活動が「すべてこのいのちに生かされた同根の兄弟姉妹である」という仏教の世界観、すなわち「一乗の教えに基づいて行われていること」を再確認した。

宗援連 能登半島地震の支援活動報告と情報共有 第41回情報交換会

「黒い蜻蛉」著 ジーン・パズリー氏 記者会見

小泉八雲(ラファディオ・ハーン)の人生を描いた小説

「お帰りと」著 特定失踪者 家族の声

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会 秋季慰霊祭

慰霊の誠を捧げ、次の世代へ継承誓う



戦没者へ哀悼の意を表し献花を捧げる日宗連の石倉理事長

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会(鈴木俊一会長)は10月18日午後0時45分から、東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「令和6年度秋季慰霊祭」を開催した。

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会(鈴木俊一会長)は10月18日午後0時45分から、東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「令和6年度秋季慰霊祭」を開催した。

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会(鈴木俊一会長)は10月18日午後0時45分から、東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「令和6年度秋季慰霊祭」を開催した。

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会(鈴木俊一会長)は10月18日午後0時45分から、東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「令和6年度秋季慰霊祭」を開催した。

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会

「原発問題を倫理的視点から再考する」オンライン学習会